

報道関係者各位

『朝鮮とその藝術』刊行 100 周年記念
柳宗悦の心と眼
—日本民藝館所蔵 朝鮮関連資料をめぐって—

平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

この度、駐日韓国文化院と日本民藝館は、「『朝鮮とその藝術』刊行 100 周年記念 柳宗悦の心と眼—日本民藝館所蔵 朝鮮関連資料をめぐって—」展と題した展覧会を開催する運びとなりました。

日本民藝館の創設者である柳宗悦(1889~1961)は、日本による植民地支配という状況のなかで朝鮮(現在の韓国)に関心を持ち、その美を見出し、そして人々の友であらうとしました。

日本民藝館では、所蔵する柳宗悦の朝鮮関連資料(肉筆原稿、スケッチブックなど)をめぐって、2019 年度より韓国・国外所在文化財財団の支援を受け、東京藝術大学美術学部工芸史研究室とともに調査研究を進めてまいりました。柳宗悦による著作『朝鮮とその藝術』刊行 100 周年にあたる本年、その調査研究の成果を駐日韓国文化院のギャラリーMIでの展示会を通して、広くご報告させていただきます。

さらに、展示会と併せて本展示のもととなった調査研究(2019~21 年度、韓国・国外所在文化財財団支援事業)の成果を発表するシンポジウムも開催します。

つきましては、本イベントの周知にご協力いただけますようお願いいたします。

資料のご依頼、取材のお申し込みは、駐日韓国文化院(03-3357-5970)までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

【イベント概要】



■会 期：2022 年 9 月 14 日(水)~10 月 1 日(土) 10:00~17:00

※休館日：祝日(9 月 19 日・23 日)

※開幕式：2022 年 9 月 14 日(水) 16:00~

※シンポジウム：2022 年 9 月 17 日(土) 13:00~17:00

■会 場：韓国文化院 ギャラリーMI ◆入場無料

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-10

■アクセス：地下鉄メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」1 番出口より徒歩 3 分

■展示内容：柳宗悦による肉筆原稿、写真、資料類に関連する工芸品など
約 40 点の展示

■主 催：駐日韓国大使館 韓国文化院、日本民藝館

■学術協力：田代裕一郎、東京藝術大学美術学部工芸史研究室

■後 援：国外所在文化財財団、朝日新聞社

«お問い合わせ» 駐日韓国大使館 韓国文化院 ☎03-3357-5970 www.koreanculture.jp

イベント担当 河聖煥(ハ・ソンファン) / 広報担当 趙恩京(ジョ・ウンギョン)

【本展について】

日本民藝館と東京藝術大学美術学部工芸史研究室では、2019 年度より韓国・国外所在文化財財団の支援を受け、**日本民藝館に所蔵される柳宗悦(1889～1961)の朝鮮関連資料に関する調査研究**を進めてきました。この過程で肉筆原稿や写真など数々の貴重な資料を発見、整理しました。『朝鮮とその藝術』刊行 100 周年にあたる 2022 年、本展覧会はその調査成果をもとに「**第 1 章 朝鮮との出会い**」、「**第 2 章 朝鮮の友として**」、「**第 3 章 朝鮮の美を伝える**」、「**第 4 章 今に続く柳の心と眼**」という 4 つの章から、芸術によって朝鮮の友と向き合おうとした柳宗悦の心と眼をたどります。

【記念シンポジウム】

柳宗悦の心と眼—国外所在文化財財団助成による研究成果発表

この度のシンポジウムでは、日本民藝館と東京藝術大学美術学部工芸史研究室が 2 年にわたり行った柳宗悦の資料調査及び研究（2019～21 年度、韓国・国外所在文化財財団支援事業）の結果を発表します。

展示会と連携して行う貴重な機会ですので、多くのご参加をお待ちしております。

【シンポジウム概要】

○日 時：2022 年 9 月 17 日（土）13：00～17：00 ※開場 12:30

○会 場：韓国文化院 ハンマダンホール（2F）

○募集人員：①オフライン：会場参加（180 名）

②オンライン：YouTube ライブ配信（500 名）

※公式チャンネル「オンライン駐日韓国文化院」www.youtube.com/kcultureinjapan

○申込方法：韓国文化院 HP(www.koreanculture.jp)の応募コーナーより事前申込（会員登録要）

○申込締切：9 月 4 日（日）

※定員を超えた場合は抽選とさせていただきますので、予めご了承ください。

※当選された方へのみ、9 月 9 日（金）までに確認書をメールにてお送りします。落選された方には別途ご連絡をいたしませんので予めご了承ください。当落確認のお問い合わせはご遠慮ください。

※YouTube ライブ配信は、応募された方にのみ参加できる URL を送付いたします。限定公開のため、申請のない方はご覧いただけませんので、ご了承ください。

【プログラム】

○総合司会：古屋真弓（日本民藝館 学芸員）

○開会辞：駐日韓国文化院 孔炯植（コン・ヒョンシク）院長

○発 表：「柳宗悦と光化門—日本民藝館所蔵資料調査から—」杉山享司（日本民藝館 常務理事）

「柳宗悦と石窟庵—日本民藝館所蔵資料調査から—」

芹生春菜（東京藝術大学 学術インストラクター）

○休 憩

○発 表：「柳宗悦と朝鮮陶磁—日本民藝館所蔵資料調査から—」田代裕一郎（獨協大学 非常勤講師）

「柳宗悦と『今も続く朝鮮の工芸』—日本民藝館所蔵資料調査から—」

片山まび（東京藝術大学美術学部 教授）

○上映会：「日本民藝館物語（第二章 柳宗悦 信と美を求めて）」（18 分）

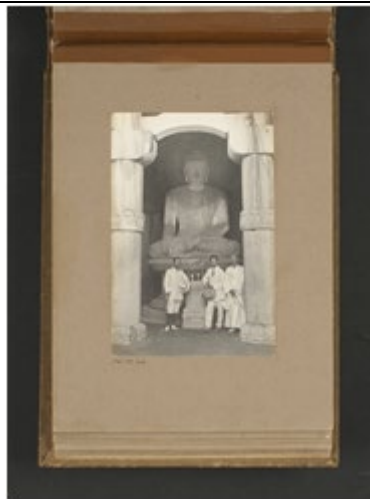
○座談会：発表者及び特別招待者による座談会

—司会：片山まび（東京藝術大学美術学部 教授）

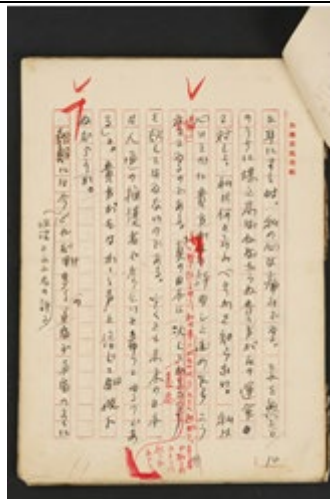
—特別討論：咸舜燮（国立大邱博物館 館長）

○閉会辞：杉山享司（日本民藝館 常務理事）

【出品作品（予定）】



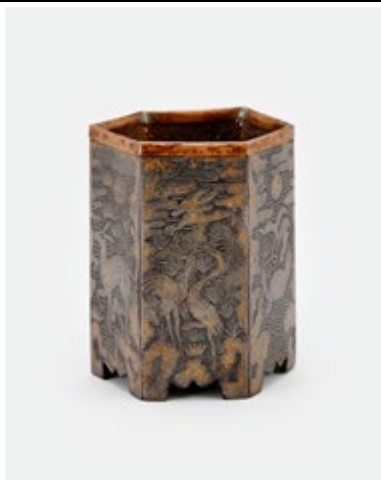
「石窟庵アルバム」
1916 年 日本民藝館蔵



「朝鮮の友に贈る書」肉筆原稿
1920 年 日本民藝館蔵



「メモランダ」スケッチブック
1921～22 年 日本民藝館蔵



鉄製銅線象嵌十長生文六角筆筒
19 世紀 日本民藝館蔵



鉄砂龍文壺
17 世紀 日本民藝館蔵



真鍮製合子
1930 年代 日本民藝館蔵

【メッセージイベント：日韓の友に贈る書】

「朝鮮の友に贈る書」（1920 年）を記した柳宗悦は、日本による植民地支配下にある朝鮮の人々を「友」と表現し、親愛の心を伝えました。時代は異なるものの、グローバル化を背景として国や民族を超えた交流が盛んになりつつある現在、この「朝鮮の友に贈る書」にちなみ、日韓の「友」に親愛の心を伝えるイベントを開催します。

展示をご鑑賞後、会場のイベントスペースや SNS にご自身が日韓の「友」と考える存在に親愛の心を伝えるメッセージを書いてください。SNS にてご参加される方は、展示鑑賞後ご自身のアカウントにて [#日韓の友に贈る書](#) [#柳宗悦の心と眼](#) のタグをつけてメッセージを投稿してください。

メッセージの一部を展示会場、展示の公式 SNS でご紹介し、優秀作にはささやかなプレゼントを贈呈します。

【関連展示】

本展と同時期に開催される以下の展示会と連携して広報を行います。

○日本民藝館(東京)「柳宗悦と朝鮮工芸 陶磁器の美に導かれて」(2022 年 9 月 1 日～11 月 23 日)

○滋賀県立陶芸の森 陶芸館(信楽)「静中動：韓国のスピリットをたどる一開かれた陶のアート」(2022 年 9 月 17 日～12 月 18 日)

«お問い合わせ：駐日韓国文化院 河・趙 ☎03-3357-5970 ✉ postmaster@koreanculture.jp »